

人は社会のなかで生活している。その生活のなかに言語のありようがある。生活の場が変化すれば、言語のありようも変化する。言語状況を観察するためには、人がどのような生活環境のなかにおかれているのかを確認する必要がある。

社会のなかの「家庭」—言語継承の場としての家庭とその不安定さ

琉球諸語の復興について論じるなかで、松尾慎（まつお・しん）は「「家庭」が果たす役割」についてつぎのように指摘している。

…危機言語復興のためには、家庭において上の世代が頑固に下の世代に対して琉球諸語で語りかけることが必須であることは間違いない。沖縄の場合、「上の世代」とは両親の世代ではなく、祖父母の世代であることは…中略…明らかである。まずは、祖父母世代と両親世代、孫世代が言語を伴う相互行為を密に取ることが前提となり、その前提の上で、祖父母世代が下の世代にどれだけ多くの琉球諸語を伝えていくことができるのかが鍵となる。しかし、核家族化が進む状況を考えれば、家庭の枠を超えてある地域に居住する祖父母世代がその地域に居住している孫世代の子どもたちと接する機会を生み出していくコミュニティの力、行政の下支えが肝要になるのではなからうか（まつお2014:205-206）。

大家族での生活のなかで継承されてきた言語が核家族化にともない、継承の舞台が縮小されてしまっている。さらには、近年の傾向として貧困家庭の増加という問題もあり、親が子どもの成長につきそう余裕が以前よりも、もちにくくなっている。それはとくに、移民コミュニティにおいていえることだろう。共働き、あるいは、ひとり親の家庭で成長するなかで、親から言語を継承することがより困難になっているということである。

琉球諸語でも、移民の言語でも、家庭だけに継承の役割を期待することは無理がある。社会としてのアプローチが必要である。松尾はその点について、つぎのように指摘している。

家庭が危機言語の維持と復興のために重要であるとされているのは、当該言語を下世代に継承する場として最も優れているからである。その場が機能しないならば、世代を超えた継承が促進される場を作っていかなければならない。そうした場は、教育現場であり、メディアでもあろうが、「地域」を核にした活動をデザインできないであらうか。…中略…コミュニティレベルで危機言語の維持と復興に重要な役割を持つ「家庭」的な場を作ることが求められる。…後略…（同上:216）

移民に関していえば、発達障害のある外国人のこどもの存在が認知されるようになったことの結果として、いわゆる「放課後等デイサービス」が設置されるようになってきている。発達障害にかかわる困難と言語発達の両方を支援する療育施設ができることによって、社会のなかに「「家庭」的な場を作る」ことができる。琉球諸語においても、たとえば「劇団」のように幅広い世代が参加する文化事業が活発になれば、日々の練習とその成果を発表する機会がえられることになり、言語文化を継承していくことができる。

まとめ

学校のなか、そと、家庭のなか、そと、あらゆる場において、複数の言語や文化をつなぎ、そだてていくことが現代の日本の課題であるといえる。そのために、言語に関する法整備も必要だろう。また、生活環境そのものをよりよくしていくこと、貧困をなくし、育児を支援していくことも必要であろう。社会のなかに、気軽に利用できる文化施設がどれだけあるか。さまざまな人と出会い、つながることができるような機会がどれだけ用意されているか。人が孤立することなく、差別されることのない社会をつくることができなければ、単一言語主義の問題は解消されない。

言語は、社会のなかにある。社会環境のなか、人間の生活がある。生活に密着にむすびついたものであるからこそ、言語（問題）を研究することには倫理がとられる。人を相手にする研究であるからこそ、研究倫理を無視することはできない。

参考文献

- 近藤ブラウン妃美（こんどう ぶらうん きみ）ほか編 2019 『親と子をつなぐ継承語教育—日本・外国にルーツを持つ子ども』くろしお出版
- ましこ・ひでのり 2014a 「「言語」と「方言」—本質主義と調査倫理をめぐる方法論的整理」下地理則（しもじ・みちのり）／パトリック・ハインリッヒ編『琉球諸語の保持を目指して』ココ出版、22-75
- ましこ・ひでのり 2014b [=2002] 『ことばの政治社会学』三元社
- 松尾慎（まつお・しん） 2014 「言語使用領域を維持および復興する」下地理則（しもじ・みちのり）／パトリック・ハインリッヒ編『琉球諸語の保持を目指して』ココ出版、192-218
- 松田真希子（まつだ・まきこ）／中川郷子（なかがわ・きょうこ） 2017 「外国にルーツをもつ児童の発達アセスメントと言語の問題について—発達障害と一時的リミテッド状況の鑑別のための調査研究」『金沢大学留学生センター紀要』21号、29-42
- 宮本常一（みやもと・つねいち）／安溪遊地（あんけい・ゆうじ） 2008 『調査されるという迷惑—フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

雑誌特集

- 『手話学研究』2009年18巻「特集 手話研究の倫理」
- 『LD研究』2019年28巻2号「学会企画シンポジウム 外国人児童生徒と発達障害」

学生のコメント

…直木賞受賞作品の「熱源」は、アイヌについて書かれているそうです。また、NHKジャーナルで、AIを使ってアイヌ語を研究する外国人がいました。私はスタートレックが好きなのですが、「言語」という観点で見ると面白いと思いました。最初は通訳士がいたのですが、時が経ち万能翻訳機ができて、それのおかげで地球は平和になった…みたいな感じでした。

…先生はレジュメの中でもひらがなが多めの文章をかいていると思います。例えば「つたえる」とか「あらためて」など。そんなに難しくないのではないかと思う言葉もひらがなだったりします。何かこだわりがあるのでしょうか？ …後略…

【あべのコメント：和語をかながきにするということです。なるべく。「きく」という日本語は「きく」であって、聞く聴く効くなどと書きわけるのはナンセンスだという立場です。日本語学の研究者には和語をかながきにする＝訓よみ漢字をつかわない人がけっこういますよ。ただ、完全に排すと、わかちがきをしない分、ひらがなが連続しすぎるので、ある程度は漢字にしています。「あらためて」と「あたらしい」は語源的にはおなじですね。「あらたしい」が「あたらしい」へと発言が変化しただけ。あらためては「改めて」、あたらしいは「新しい」などというのも無意味だろうと。要するに、日本語漢字の複雑さの要因のひとつが訓よみ漢字の用法であるという認識にもとづくものです。】

…日本以外での言語権に関するとりくみ：スペインのカタルーニャ地方の話です。どうしてもカタルーニャ語よりカステリーリャ語（スペイン語）に触れることが多いため、子どもたちにカタルーニャ語に慣れてもらたうために、昔、TV3（カタルーニャのテレビ放送局）が日本のアニメをカタルーニャ語にしてスペインの中で独占放送していたそうです。

【あべのコメント：吹き替えはよくありますね。台湾でも客家TVという公共放送のチャンネルがあって、客家語や客家文化専門に放送しています。そこで日本のドラマに客家語の吹き替えをのせているのを見たことがあります。『こち亀』のアニメは両津が台湾国語（北京官話）と台湾語（ホーロー語）をつかいはけ（コードスイッチング）しながら話すそうで。キャラクターにぴったりだと評判だったとか。】

台湾に旅行しに行った時、店員に英語で話しかけたら、たいてい日本語のメニューや日本語で話しかけたりして日本語でもいいのだとホッとします。／カナダのバンクーバー島南部にカウチャン（Cowichan）と呼ばれる先住民たちが話す“Halkomelem”をまとめた語彙集をアプリにしたと話で聞いたことがあります。

…最近Twitterで話題になったのは森下suuさんの少女マンガで『ゆびさきと恋々』ってやつが思いうかびました。手話を使う女の子の話ですが、日本語対応手話でした。手話の学習とかにはならないんですが、こういう世界もあるんだなっていう入口になる気がします。

【あべのコメント：多くの場合、ろう者をえがく作品は聴者がつくっていますね。なかには、よく取材してある作品もあれば、現実味がない、ステレオタイプな描写になっているものもあります。そこで、ろう者がどんな感想をかいているのかチェックしてみると、いろいろと見えてくるものがあります。できるだけたくさんの当事者のコメントを見ていくことで、「入口」から中に入門していける。】

らーめんずのコント：言語政策についてのコントがあります。（ただの面白いコントが、見方を変えると言語権や言語政策を暗示する内容に見える、というのが正しい表現かと思います。…後略…

【あべのコメント：ちょうど言語学の研究者のブログで、「ことば」から見て（も）おもしろいと思うラーメンズのおすすめコントをいくつか」という記事がありました。<http://dlit.hatenablog.com/entry/2017/01/04/153144>】

…名古屋にもご当地ヒーローがいたような、と検索してみたら『グランスピアー』がいました。『琉神マブヤー』と監督が同じようなので観てみたいと思います。／有川浩の『レインツリーの国』失聴者のヒロインとの恋愛物です。

…「女々しい」「雄々しい」という言葉は男尊女卑を連想させるのであまり好きではないです。とはいえ、「女々しい」も「雄々しい」もすでに定着してしまった言葉で、「『女々しい』は男女差別だ!!」と誰かが言ってもきっと「ただの言葉だろう」と本気に取りあってくれない人が一定数いるんだろうな、と思います。…後略…

『アイヌ文化で読み解くゴールデンカムイ』という本がでています。ゴールデンカムイでアイヌ文化に興味をもった人がさらにふみこんで学ことができる本だと思います。網走監獄へ行った時も、ゴールデンカムイの名場面解説パネルコーナーがあり、とても面白い内容でした。

アイヌ民族支援法もできて、アイヌはその民族性が尊重されているけれど、琉球・沖縄の人々の中では多くの日本人と違う民族であると別者として認識されることを嫌う人がいるというのも聞いた。しかし、そこにはかつてうちなぐちを話すことを禁じられたり、劣っているとされた歴史が影響しているのだと思う。琉球の文化が尊重され、現在の沖縄がポストコロナリズムの立ち位置から解放されるためには、琉球諸語を方言→言語と位置付けることから始まるのかもしれない。／ジェンダー認識が気になる作品として、『ベビーシッター・ギン』に対する言語の視点からの分析が気になります。女性的な男性？がベビーシッターをする話です。…後略…

…日本の公共施設での取り組みというと、豊田市は名古屋大とタッグを組んで外国人住民向けの日本語教室を定期的で開催していました。市だけに任せるのではなく、専門家が協力して体系的な教室運営ができている良い例だと思います。大学では英語とスペイン語を学習しています（ました）。互いに似ている単語や表現があることに気付いておもしろかったです。「正しい英語」「正しい敬語」を使わなければならないという強制力は色んなところで感じる…

解放されたいと感じている規範、固定観念：「女の子だから、汚い言葉遣いをしないように」ということを母からよく言われてきたのですが、「なんで？」と聞いても納得いく理由が返ってきません。個人的には、初対面の相手や年上相手には気をつけるようにしたいと思っていますし、それには納得がいつているのですが、それ以外の場面で言葉は自由にしたいです。一人称は「オレ」の方がしっくりくるし、「食う」と言っても別にいいと思います。…後略…

岐阜の田舎の出身なのですが、どうしても岐阜弁には田舎くささがあるように感じてしまう。高校生までは何も気にせず話していたけれど、大学生になってからはできるだけ標準語に近い言葉を話すように意識している。言語に優劣をつけてしまうのは何だかなと思うけれど……。

…アイヌをテーマにした漫画『ゴールデンカムイ』が本当に面白いので、ウポポイでもコラボ企画があったら北海道まで行きたいと思う。／フランスのトゥールーズにいた時に地下鉄で、標準語に加えてオック語（オクシタン語）のアナウンスが流れていた。若い人たちがアナウンスに合わせて特長的なオック語の発音をマネして笑っていました。その土地の人たちに根付くようにしているのは良い取り組みだと思いました。…中略…ゴールデンカムイはグルメ漫画として非常に優れていて北海道・ロシアでしかとれない動物や魚の調理法を捕獲の仕方から見せてくれるのがとても面白い。一番おすすめはラッコ鍋を食べる回です。

参考：ウェブ検索のコツ

言語を研究するうえで、フレーズを検索したくなるときがある。複数の文字列を検索し、どれだけ使用されているか、確認する場合がある。その場合は、そのフレーズを” ”でくるとよい。

また、検索結果に無関係なフレーズがたくさん表示される場合、その語をとりのぞいた検索結果を表示するために、-○○と入力すればよい。

例1：「"use of they" gender identity」

このように検索すれば、性自認の多様化にともない、heやsheのかわりにtheyという語を使用する例についての議論が検索できる。

例2：「"ことばのバリアフリー" -あべやすし」

このように検索すれば、「ことばのバリアフリー」という用語がどのように使用されているのか、あべによる発信をとりのぞいて確認することができる。